

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成28年10月17日)

事業コード	H28-建-終-03	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)	部 局 課 室 名	建設部 道路課
事業種別	1次改築(バイパス)	班 名	道路建設班 (tel)018-860-2492
路線名等	(主)男鹿琴丘線	担 当 課 長 名	菅原 喬
箇所名	男鹿市百川	担 当 者 名	長谷川 一仁
政策コード	17	政 策 名	新たな生活圏の創造
施策コード	04	施 策 名	地域内交通の整備
指標コード	01	施策目標(指標)名	県道の整備促進

1. 事業の概要

事業の背景及び目的	当該路線は、男鹿市若美町から男鹿市街への通勤、通院等の日常生活を支援するとともに、観光拠点である寒風山への能代地区からのアクセス道路となる重要な路線である。 当該区間は、幅員狭小(Wmin=3.0m)で急カーブ(Rmin=15m)が連続し、バス路線に指定されているにもかかわらず、歩行者や地域内交通の安全確保ができていない状況である。このため、生活道路として日常機能と地域住民の安全性を早急に確保するものである。						
	事業期間	前回(H24年) H17年 ~ H26年 終了 H17年 ~ H26年	総事業費	前回(H24年) 19.7 億円 終了 16.3 億円	国庫補助率 7/10		
事業効果の要因変化及び発現状況	事業規模	前回(H24年) 延長L=4,696m 幅員W=6.0(8.5)m (1.25+3.0+3.0+1.25) 終了 延長L=4,696m 幅員W=6.0(8.5)m (1.25+3.0+3.0+1.25)					
	事業費内訳内容(千円)及び要因変化	前回評価計画①	最終②	増減②-①	理由		
		事業費	1,970,000	1,629,967	-340,033		
		経内費	工事	1,490,000	1,237,934	-252,066	水道管等移設工事の減による
			用補	450,000	364,464	-85,536	用地単価、物件補償額の算定による減
	その他	30,000	27,569	-2,431			
	事業内容	調査・設計 改良工、舗装工	調査・設計 改良工、舗装工				
	コスト・効果対比較	費用便益変化の主な要因(前回評価→終了)					
	○最終コスト	【便益】 事業費の減額により費用便益比が大きくなった。					
	○費用便益	【費用】 男鹿市所有水道管等の移設工事を市と工程調整し、市施工としたことによりコスト縮減した。					
前回評価 B/C = (1.4) ↓ 終了 B/C = (1.6)							
目標達成率	指標名	県道改良率					
	指標式	改良済延長/路線実延長					
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○有 ●無			
	目標値a	73.3%	データ等の出典	道路課調べ			
	実績値b	74.7%					
	達成率b/a	101.9%	把握の時期	平成28年 4月			
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 ○指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 ※データの出典含む							
自然環境の変化	・特になし。 当該工区周辺の自然環境に大きな変化はない。						
社会経済情勢の変化	・特になし。						
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	・バイパス建設により通過交通と地域内交通の分離され、通過交通に対しては速度向上が、地域内交通に対しては安全性向上が図られている。						

住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ● 受益者 ● 一般県民 (時期:平成28年 8月) ②満足度把握の方法 ● アンケート調査 ○ 各種委員会及び審議会 ○ ヒアリング ○ インターネット ○ その他の方法 (具体的に) ③満足度の状況
	9割の回答者から「満足している」「おおむね満足している」との回答を得ている。
上位計画での位置付け	○ふるさと秋田元気創造プラン「地域医療などを支える救急ネットワークの整備」
関連プロジェクト等	
前回評価結果等	●選定または継続 ○改善 ○見直し ○保留又は中止
	①指摘事項 特に無し。
	②指摘事項への対応 特に無し。

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	①住民満足度の状況 ●A ○B ○C アンケート調査結果から、回答者の9割が事業に満足、概ね満足している。また満足している理由の約4割は「目的地への速達性」と「急カーブの解消」である。	●A ○B ○C
	②事業の効果 ●A 達成率100%以上 ○B 達成率80%以上100%未満 ○C 達成率80%未満 当該事業は計画通り進捗し、県管理県道改良率の目標に達した。	○C
効率性	①事業の経済性の妥当性 ●A ○B ○C 費用便益費は1.0を上回っていることから、本事業は経済的に妥当であったと評価できる。	●A ○B ○C
	②コスト縮減の状況 ○A 縮減率20%以上 ○B 縮減率20%未満 ○C 縮減なし	○C
総合評価	●A (妥当性が高い) ○B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い) 地域住民及び道路利用者の利便性の向上や交通安全の確保が図られており、住民満足度等からも成果が認められることから、当事業は妥当性が高いと評価できる。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業開始前の予備調査や設計段階での現場の把握、他事業との調整等により、道路の整備効果が十分に発揮されるよう検討・設計を行い、更には工法の工夫等によるコスト縮減へも積極的に取り組み、効率的な事業執行を図るとともに、地域住民や道路利用者から高い満足が得られるよう努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

○総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	